



## 平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年2月13日

上場会社名 東洋刃物株式会社

上場取引所 東

コード番号 5964 URL <http://www.tovoknife.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 高橋 允

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役

(氏名) 清野 芳彰

TEL 022-358-8911

四半期報告書提出予定日 平成26年2月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成26年3月期第3四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	3,556	2.5	△34	—	△79	—	236	32.0
25年3月期第3四半期	3,470	△13.3	△99	—	△162	—	179	51.5

(注) 包括利益 26年3月期第3四半期 283百万円 (54.0%) 25年3月期第3四半期 184百万円 (87.4%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	23.69	—
25年3月期第3四半期	17.95	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年3月期第3四半期	5,312	743	14.0	74.33
25年3月期	5,429	459	8.4	45.90

(参考) 自己資本 26年3月期第3四半期 741百万円 25年3月期 458百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
26年3月期	—	0.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,670	—	10	—	△30	—	270	—	27.05

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

26年3月期3Q	10,000,000 株	25年3月期	10,000,000 株
----------	--------------	--------	--------------

② 期末自己株式数

26年3月期3Q	20,308 株	25年3月期	20,308 株
----------	----------	--------	----------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年3月期3Q	9,979,692 株	25年3月期3Q	9,980,138 株
----------	-------------	----------	-------------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づくレビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P2
(1) 経営成績に関する説明	P2
(2) 財政状態に関する説明	P2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P2
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	P3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	P3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	P3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	P3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	P3
4. 四半期連結財務諸表	P4
(1) 四半期連結貸借対照表	P4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P8
(継続企業の前提に関する注記)	P8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P8
(セグメント情報等)	P9
(重要な後発事象)	P9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済刺激策による効果に加え、円安・株高も後押しし回復基調にて推移いたしました。設備投資も慎重ななかにも改善傾向にあり、消費税率アップに伴う駆け込み需要の動きも見られました。海外経済は、中国・新興国の停滞感や、ユーロ圏における回復テンポの緩慢さはあるものの、米国の持ち直しもあり、総じて緩やかな回復基調にて推移いたしました。

当社グループにおきましては、精密機械部品、鉄鋼用刃物の受注は堅調であったものの、主力の情報産業用刃物をはじめ、伸び悩んだ製品もあり、当第3四半期連結累計期間における業績は、売上高が35億56百万円（前年同四半期比2.5%増）となりました。損益面におきましては、収益性の低い売上品種構成を要因として原価高となり、営業損失34百万円（前年同四半期は営業損失99百万円）、経常損失79百万円（前年同四半期は経常損失1億62百万円）となりましたが、投資有価証券の売却および被災した多賀城事業所の不動産の一部を譲渡し、これらの売却益を特別利益に計上したことにより、四半期純利益は2億36百万円（前年同四半期比32.0%増）となりました。

## ア) 機械刃物及び機械・部品

当セグメントにおきましては、産業用機械・部品は増加したものの、主力の情報産業用刃物が伸び悩み、その結果、売上高は32億29百万円（前年同四半期比2.2%増）となり、セグメント利益は1億43百万円（前年同四半期比46.3%増）となりました。

## イ) 緑化造園

当セグメントにおきましては、東日本大震災に関わる復旧・復興関連の受注は減少しているものの、造園工事及び管理業務が堅調に推移し、売上高は3億26百万円（前年同四半期比5.3%増）となり、セグメント利益は9百万円（前年同四半期比47.4%減）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

流動資産は、前連結会計年度末に比べて0.4%増加し、31億62百万円となりました。これは、主として現金及び預金の増加並びに受取手形及び売掛金の増加などによるものです。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて5.6%減少し、21億50百万円となりました。これは主に機械及び運搬具などの有形固定資産の減少などによるものです。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて2.2%減少し、53億12百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べて12.1%減少し、31億86百万円となりました。これは主として短期借入金の減少などによるものです。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて2.9%増加し、13億82百万円となりました。これは主として退職給付引当金の増加などによるものです。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて8.1%減少し、45億69百万円となりました。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ61.7%増加し、7億43百万円となりました。主な要因は四半期純利益を2億36百万円計上したことなどによるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成25年11月1日発表の通期の業績予想に変更はありません。

上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る仮定を前提としています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

### (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

### (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

## 3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度において営業損失および経常損失を計上し、当第3四半期連結累計期間においても、受注高は計画を達成したものの、業績としては前連結会計年度の受注低迷、収益性の低い製品売上高の売上構成比率に占める割合の上昇および製造工程における歩留まりの低下等を受け、営業損失および経常損失を計上しております。

また、取引金融機関からの借入金の返済条件の変更を受け、約定どおり返済しているものの、前連結会計年度において業績が計画と大幅に乖離したことから手許資金残高が減少しており、今後、現在の約定どおりの返済に支障を来すおそれがあります。

以上により、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当社グループは、当該状況を解消するために平成23年12月に策定した再生計画書に基づき、業務改善活動を進めており、引き続き以下の諸施策の実現に向けて取り組んでおります。

### 1. 収益性の向上

- ①高精度精密製品等高付加価値製品の売上拡大に注力し、売上総利益率の向上を図っております。
- ②原材料費、外注費をはじめとする製造原価の削減を行い、低利益率製品の見直しを図っております。
- ③給与体系の見直し並びに事業規模に応じた人員体制の見直し等を通じ固定費の削減を図っております。

### 2. 財務体質の改善

- ①取引金融機関との協議により、借入金の平成25年7月以降の返済条件を変更しております。
- ②自己資本の充実ならびに運転資金の確保を目的として、平成25年7月3日に投資有価証券を売却しております。また、有利子負債の圧縮ならびに自己資本の充実を目的として、平成25年8月29日に多賀城事業所の不動産の一部を譲渡しております。

しかしながら、これらの対応策に関して、収益性の向上については、今後の経済環境の変化による影響を受け計画どおりに推移しない可能性があります。また、財務体質の改善については、取引金融機関との協議を継続していく必要があります。

以上により、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が存在しております。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、このような継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表には反映しておりません。

4. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	709	805
受取手形及び売掛金	1,256	1,315
製品	249	240
仕掛品	416	353
原材料及び貯蔵品	495	404
繰延税金資産	9	10
その他	26	45
貸倒引当金	△12	△11
流動資産合計	3,151	3,162
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	717	689
機械装置及び運搬具(純額)	570	481
その他(純額)	525	489
有形固定資産合計	1,814	1,660
無形固定資産	20	12
投資その他の資産		
投資有価証券	354	390
繰延税金資産	35	34
その他	97	81
貸倒引当金	△43	△29
投資その他の資産合計	443	476
固定資産合計	2,278	2,150
資産合計	5,429	5,312
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	560	525
短期借入金	2,740	2,386
リース債務	42	23
未払法人税等	14	17
賞与引当金	18	5
その他	249	227
流動負債合計	3,626	3,186
固定負債		
長期借入金	810	806
リース債務	25	12
繰延税金負債	23	30
退職給付引当金	432	486
役員退職慰労引当金	27	25
環境対策引当金	23	21
固定負債合計	1,343	1,382
負債合計	4,969	4,569

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	500	500
資本剰余金	194	194
利益剰余金	△248	△12
自己株式	△3	△3
株主資本合計	441	678
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	49	64
為替換算調整勘定	△32	△0
その他の包括利益累計額合計	16	63
少数株主持分	1	1
純資産合計	459	743
負債純資産合計	5,429	5,312

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
四半期連結損益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	3,470	3,556
売上原価	2,727	2,816
売上総利益	742	739
販売費及び一般管理費	842	773
営業損失(△)	△99	△34
営業外収益		
受取利息	1	1
受取配当金	4	4
持分法による投資利益	9	3
為替差益	2	9
その他	21	19
営業外収益合計	38	39
営業外費用		
支払利息	75	64
その他	26	19
営業外費用合計	101	84
経常損失(△)	△162	△79
特別利益		
災害助成金収入	362	—
固定資産売却益	—	185
投資有価証券売却益	—	174
特別利益合計	362	360
特別損失		
工場移転費用	3	—
固定資産除却損	—	16
災害助成金返還額	—	4
特別損失合計	3	20
税金等調整前四半期純利益	196	260
法人税、住民税及び事業税	19	23
法人税等調整額	△2	0
法人税等合計	16	24
少数株主損益調整前四半期純利益	179	236
少数株主利益	0	0
四半期純利益	179	236

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	179	236
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2	15
為替換算調整勘定	△0	14
持分法適用会社に対する持分相当額	3	17
その他の包括利益合計	5	47
四半期包括利益	184	283
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	184	283
少数株主に係る四半期包括利益	0	0

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

## (継続企業の前提に関する注記)

当社グループは、前連結会計年度において営業損失および経常損失を計上し、当第3四半期連結累計期間においても、受注高は計画を達成したものの、業績としては前連結会計年度の受注低迷、収益性の低い製品売上高の売上構成比率に占める割合の上昇および製造工程における歩留まりの低下等を受け、営業損失および経常損失を計上しております。

また、取引金融機関からの借入金の返済条件の変更を受け、約定どおり返済しているものの、前連結会計年度において業績が計画と大幅に乖離したことから手許資金残高が減少しており、今後、現在の約定どおりの返済に支障を来すおそれがあります。

以上により、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当社グループは、当該状況を解消するために平成23年12月に策定した再生計画書に基づき、業務改善活動を進めており、引き続き以下の諸施策の実現に向けて取り組んでおります。

## 1. 収益性の向上

- ①高精度精密製品等高付加価値製品の売上拡大に注力し、売上総利益率の向上を図っております。
- ②原材料費、外注費をはじめとする製造原価の削減を行い、低利益率製品の見直しを図っております。
- ③給与体系の見直し並びに事業規模に応じた人員体制の見直し等を通じ固定費の削減を図っております。

## 2. 財務体質の改善

- ①取引金融機関との協議により、借入金の平成25年7月以降の返済条件を変更しております。
- ②自己資本の充実ならびに運転資金の確保を目的として、平成25年7月3日に投資有価証券を売却しております。また、有利子負債の圧縮ならびに自己資本の充実を目的として、平成25年8月29日に多賀城事業所の不動産の一部を譲渡しております。

しかしながら、これらの対応策に関して、収益性の向上については、今後の経済環境の変化による影響を受け計画どおりに推移しない可能性があります。また、財務体質の改善については、取引金融機関との協議を継続していく必要があります。

以上により、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が存在しております。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、このような継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表には反映しておりません。

## (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## I 前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		
	機械刃物及び機械・部品	緑化造園	計
売上高			
外部顧客への売上高	3,160	310	3,470
セグメント間の内部売上高 又は振替高	0	40	40
計	3,160	350	3,510
セグメント利益	97	18	116

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利 益	金 額
報告セグメント計	116
セグメント間取引消去	0
全社費用(注)	△217
四半期連結損益計算書の営業利益	△99

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

## II 当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		
	機械刃物及び機械・部品	緑化造園	計
売上高			
外部顧客への売上高	3,229	326	3,556
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	0	0
計	3,229	326	3,556
セグメント利益	143	9	152

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利 益	金 額
報告セグメント計	152
セグメント間取引消去	0
全社費用(注)	△186
四半期連結損益計算書の営業損失	△34

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。